

第7回 海軍道路の桜並木に関する懇談会

日時：令和4年6月8日（水）16：00～18：00

場所：中屋敷地区センター

議 題

○開会

○議事

- 1 前回までの懇談会での主な意見とまとめ
- 2 「桜並木再生等の基本的な考え方（懇談会の意見とりまとめ）」と「旧上瀬谷通信施設地区 新たな桜の名所づくりに向けた今後の進め方」について
- 3 C区間の考え方（案）について
- 4 事例紹介
 - ・神奈川県立瀬谷西高等学校の取組みについて
 - ・他地区事例について（記憶の保全事業）
- 5 意見交換

○閉会

■配布資料（案）

- 資料1 : 前回までの懇談会での主な意見とまとめ
- 資料2-1 : 「桜並木再生等の基本的な考え方（懇談会の意見とりまとめ）」
- 資料2-2 : 「旧上瀬谷通信施設地区 新たな桜の名所づくりに向けた今後の進め方」について
- 資料3 : C区間の考え方（案）について
- 資料4 : 事例紹介
- 参考 : (仮称) 旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）、
神奈川県立瀬谷西高等学校の取組事例

■第8回 海軍道路の桜並木に関する懇談会について（予定）

日時：令和4年7月 日の開催を予定

後日、改めて出席依頼文を送付させていただきます。

なお、新型コロナウイルスの感染状況等により変更となる場合があります。

前回までの懇談会での主な意見とまとめ

1 令和3年度 懇談会での主な意見

○第1回～第3回懇談会

① 海軍道路の将来の考え方(何を重視するか)

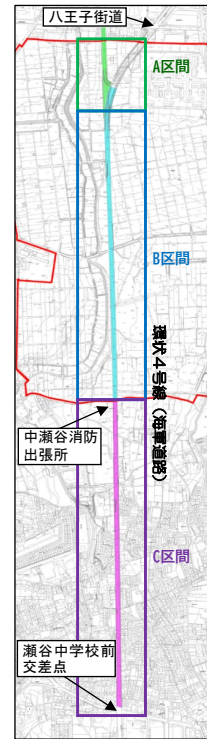
- ・ 今までの桜の継承(由来や思い)
- ・ 樹木の成長・大きさを考える(樹木としての視点)
- ・ 安全で明るい通学路、歩行空間(生活道路)

② 区間ごとに特性が違い、重視するポイントが異なる

- ・ それぞれの区間の特性、A,B区間とC区間(住宅や商店等)の違い

○まとめ

海軍道路の特性を踏まえて、
今後A,B区間とC区間を分けて検討を進める。



○第4回～第5回懇談会

③ 桜は街路樹として適切なのか

- ・ 樹種の成長特性等を理解の上、目標とする樹形、樹高を想定し、植栽する道路空間や維持管理水準に見合った樹種、植栽間隔とする。
- ・ 植栽間隔は10mを基本とし、樹種は同一路線同一樹種とする。

④ 農地への影響

- ・ 枝、根の農地への越境は、(ソメイヨシノの)成長スピードが著しく早く大径木であること、成長の度合いに適していない植栽基盤が要因と考えられる。
- ・ カラスの巣については、人けのない場所、大径木、高木であることが要因と考えられる。

○まとめ

A、B区間は“桜並木再生”

第5回懇談会時の提示資料 一部抜粋

種名(品種名)	ヨウコウ	コシヒガン	ジンダイアケボノ	※参考 ソメイヨシノ
事例写真	植え替え前 植え替え後 横浜市 港南区 港南桜道	植え替え前 植え替え後 横浜市 泉区 いずみ野駅前通り	植え替え前 植え替え後 横浜市 金沢区 西柴の桜並木	※今回提示させていただいた3種と比較検討するための参考であり、ソメイヨシノは今後、検討する樹種ではありません。
タイプ	カンヒザクラ群栽培品種 アマギヨシノ×カンヒザクラ	エドヒガンとキンキマメザクラの交雑種 自生種 エドヒガン × キンキマメザクラ	エドヒガン群栽培品種	エドヒガン群栽培品種 エドヒガン×オオシマザクラ
開花時期、花の色	4月上旬 淡紅紫色／一重咲 ソメイヨシノより、濃いピンク	3月下旬 淡紅色／一重咲 ソメイヨシノに近い淡いピンク	4月上旬 淡紅紫色／一重咲 ソメイヨシノより、少し濃いピンク	3月下旬 微淡紅色～白色／一重咲 淡いピンク
樹高、樹形	落葉高木 広卵型 ソメイヨシノほど大きくなり、枝が広がりにくい	落葉高木 傘型 ソメイヨシノほど大きくなり、枝が広がりにくい	落葉高木 傘型 ソメイヨシノよりやや小ぶり、枝が広がりやすい	落葉高木 傘型 枝が広がりやすい
病害虫	ソメイヨシノに比べて、病害虫に強い(抵抗力がある)	ソメイヨシノに比べて、病害虫に強い(抵抗力がある)	ソメイヨシノに比べて、病害虫に強い(抵抗力がある)	てんぐ巣病にかかりやすい
成長スピード	ソメイヨシノより成長が遅い 約10年で6～7m※	ソメイヨシノより成長が遅い 約10年で6～7m※	ソメイヨシノと同程度 約10年で7～8m※	成長が早い 約10年で7～8m※
結論	△ 花の色が適していない (今までの懇談会での意見)	○ 病害虫に強い 現在の桜並木の趣(開花時期、色) ソメイヨシノより成長スピードが遅い	△ 成長スピードがソメイヨシノに近い	—

※成長スピードは、気象条件や植栽基盤の状況により大きく変化するため、あくまで参考値です。

2 第6回懇談会(令和4年3月25日)の内容と主な意見

A、B区間は、コシヒガンでいい

- ・ ヨウコウは色が少し濃く、きつい印象。コシヒガンで良いと思う。
- ・ ヨウコウよりコシヒガンの方が、枝が広がりソメイヨシノにも色が似ていることから、コシヒガンの方が見栄えが良いと思う。
- ・ 年に一度、海軍道路の桜を見に来る人の感覚から考えても、ソメイヨシノに近いコシヒガンの方がみんなに愛されると思う。
- ・ ヨウコウよりコシヒガンの方が今の景観に近い。
- ・ 瀬谷西高校隣のヨウコウを毎日見ていると、あの色合いでの並木は飽きるように思えてきた。少し地味であってもコシヒガンの方が良い。
- ・ 日本人には淡い色を愛するという心があると思う。そういう意味でも、今まで愛でてきた海軍道路の桜に近いイメージを継承していきたい。

既存のヨウコウについて

- ・ 海軍道路のヨウコウを見てきたが、色が引き立つ感じがした。
- ・ ヨウコウも花がかわいらしく、ヨウコウの良さもあると思った。瀬谷西高校の隣以外にも植えても良いと思う。

植栽基盤、街路灯について

- ・ 植栽基盤の検討状況や、桜に対して街路灯がどのように影響するか等も教えてほしい。

国際園芸博覧会との関係(桜の苗木等の準備等)

- ・ 花博のために植える場所を早く決めるなど準備をしないとけない。

桜並木再生等の基本的な考え方 —懇談会の意見とりまとめ—

目 次

- 1 目的と対象範囲
- 2 桜並木の概要・沿革
- 3 桜並木の現状・問題点
- 4 関連事業の概要
- 5 桜並木再生等の基本的な考え方（懇談会の意見とりまとめ）

1 目的と対象範囲

海軍道路では、昭和51年頃から桜（ソメイヨシノ）の植樹が始まり、桜並木が形成されています。海軍道路の桜並木は、瀬谷区区民意識調査（平成30年1月）で「瀬谷区を象徴するもの」として2位になるなど、瀬谷区を代表する桜のスポットとなっています。

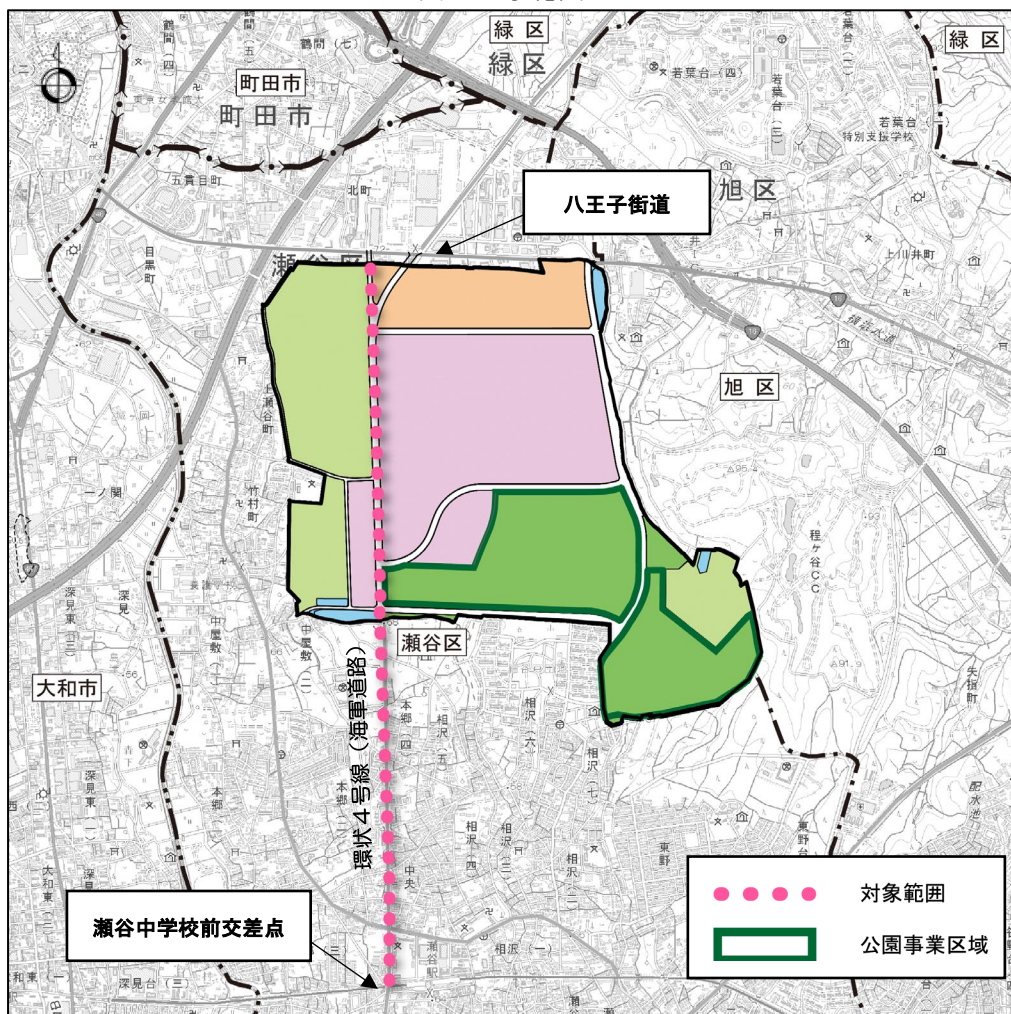
一方、平成7年度時点で約600本ソメイヨシノが生育していましたが、台風等の自然災害による倒木や樹木医の診断等により、不健全と診断された樹木を、直近10年で毎年20本程度撤去しており、令和4年4月時点では265本（令和3年4月時点282本）となるなど、老木化も進んでいる状況です。

そこで、海軍道路の桜並木について、現状や課題を把握し、再整備の方向性や将来への継承などについて意見交換を行うため、連合町内会長や公募区民等で構成された「海軍道路の桜並木に関する懇談会（以下、懇談会）」を令和3年度に設置しました。

このたび、懇談会で行った意見交換を踏まえて、「桜並木再生等の基本的な考え方（懇談会の意見とりまとめ）」をまとめました。

なお、対象区域は、瀬谷中学校前交差点から八王子街道までの環状4号線（海軍道路）とします。

図 対象範囲



- | | |
|--|---|
| 農業振興地区 | 道路 |
| 観光・賑わい地区 | 調整池（地上式） |
| 物流地区 | |
| 公益的施設用地（公園・防災等用地） | |

参考 海軍道路の桜並木に関する懇談会について

懇談会のメンバー

・ 瀬谷区上瀬谷通信施設返還対策協議会 会長・副会長	2名
・ 環状4号線沿道の連合町内会長等	
┌ 瀬谷北部町内連合会	2名
└ 本郷地区連合自治会	2名
└ 瀬谷第一地区連合町内会	2名
・ 旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会 会長・副会長	2名
・ 上瀬谷農業専用地区協議会 会長	1名
・ 瀬谷区内を対象とした公募により選ばれた区民の方	5名
合計	16名

懇談会の開催経緯

	日時	議題
第1回	令和3年7月30日(金) 16:00~18:00	1 懇談会の目的、メンバー紹介 2 海軍道路の桜並木の現状・課題 3 海軍道路の桜並木に関する方向性(案) 4 桜の植え替え事例と過去の検討経緯 5 意見交換 6 今後のスケジュールと進め方
第2回	令和3年10月26日(火) 10:00~12:00	1 第1回懇談会での主な意見 2 現地説明会 3 現地説明会を終えての感想、意見交換
第3回	令和3年11月12日(金) 16:00~18:00	1 第1回、第2回懇談会での主な意見の整理 2 今後のスケジュールと進め方(案)
第4回	令和3年12月20日(月) 16:00~18:00	1 前回までの懇談会での主な意見 2 A,B区間の樹種(案)について 3 C区間の考え方(案)について 4 意見交換
第5回	令和4年1月27日(木) 16:00~18:00	1 前回までの懇談会での主な意見 2 A,B区間の整備イメージ(案)について 3 今後のスケジュールについて 4 意見交換
第6回	令和4年3月25日(金) 16:00~18:00	1 前回までの懇談会での主な意見とまとめ 2 A,B区間の整備イメージ(修正案)について 3 今後のスケジュール(案)について

※各回、中屋敷地区センター(小・中会議室)で開催

懇談会の様子



意見交換の様子



樹木医による現地説明会

2 桜並木の概要・沿革

環状4号線のうち「海軍道路」は、市の道路愛称事業による「愛称道路」名として、環状4号線のうち瀬谷中学校前から八王子街道までの区間について名づけられたもので、直線道路が約3kmにも及びます。

海軍道路の桜並木は、日米合同委員会で、海軍道路の一部共同使用合意がなされ、昭和51年頃、平和を祈念して桜（ソメイヨシノ）が海軍道路の南側区間の瀬谷中学校～中瀬谷消防出張所間に植栽されました。昭和57年頃、海軍道路の北側区間、中瀬谷消防出張所から八王子街道間に桜（ソメイヨシノ）が植栽されました。

平成29年度瀬谷区区民意識調査での瀬谷区を象徴するものに関する設問では、「緑の多い環境、空気がいい」が最も多く、2位が「桜並木」となっています。

調査対象	瀬谷区内に居住する18歳以上の男女3,000人
調査方法	郵送によるアンケート形式
調査期間	平成29年9月11日から9月29日
回答方式	無記名、選択式
回収数	1,278件（回収率42.8%）

小分類上位10位		件数
1	緑の多い環境、空気がいい	185
2	桜並木	147
3	米軍用地の今後、有効活用	55
4	せやまる	53
5	特産(ウド、アスパラガス、なしなど)	41
6	水辺	32
7	八福神めぐり	28
8	農地と併存	27
9	長屋門公園	22
10	瀬谷市民の森	21

【海軍道路の桜並木基礎データ】

- ・海軍道路の全長：約2,850m（北側：目黒交番前～中瀬谷消防出張所付近、南側：出張所付近～瀬谷中学校前）
- ・樹種および本数：ソメイヨシノ約280本、ヨウコウ約40本
- ・管理状況：瀬谷土木事務所が樹木医による街路樹診断を毎年実施
- ・由来：「道路沿い両側に平和の願いを込めて桜が植樹された」と記載（「横濱 Vol.58 2017 年秋号」P34-35）



海軍道路の桜並木



平成23年9月の台風で倒木した様子

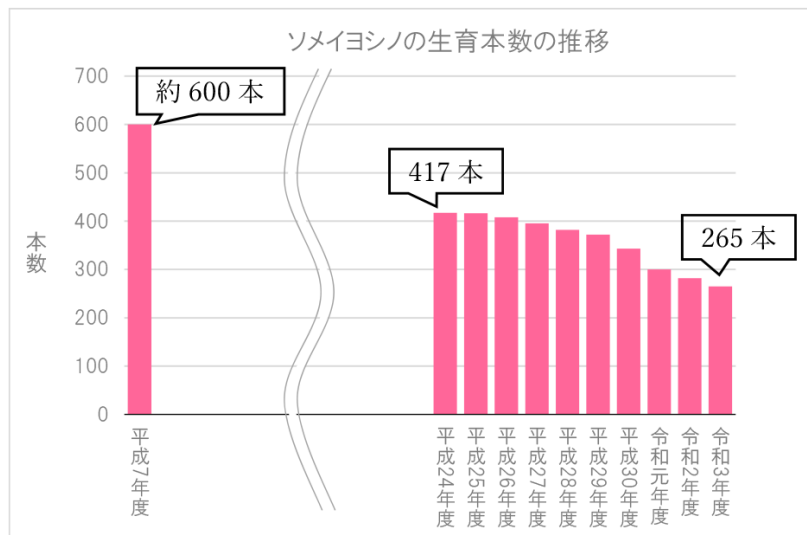
3 桜並木の現状・問題点

(1) 桜並木の生育状況・経年変化

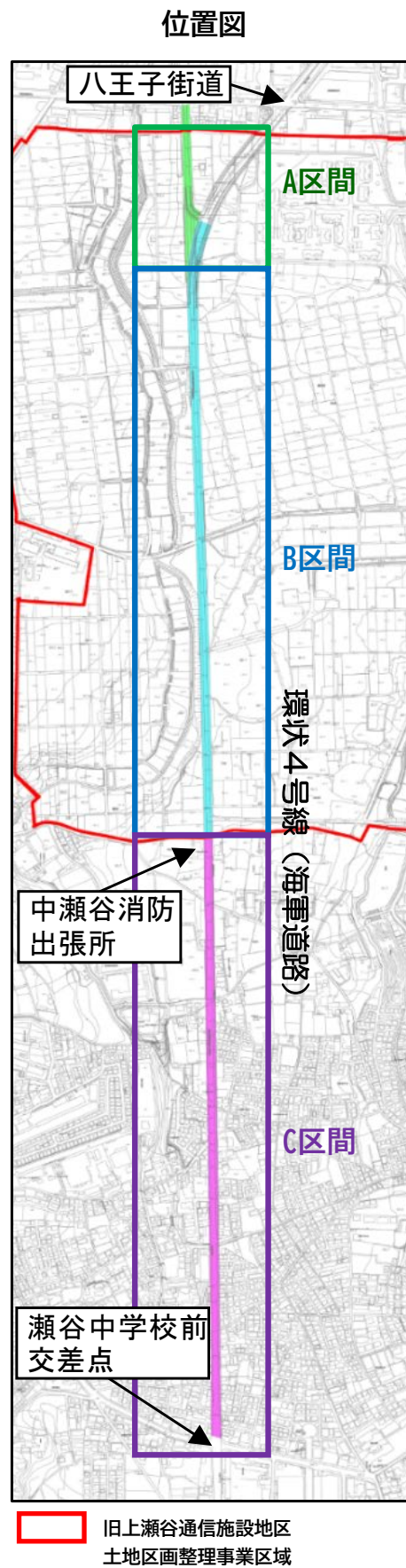
この桜並木は、旧環状4号線の区間（A区間）、旧環状4号線の南側から中瀬谷消防出張所までの区間（B区間）、中瀬谷消防出張所から瀬谷中前交差点までの区間（C区間）に区分されます。（次ページ参照）

平成7年度時点で約600本のソメイヨシノが生育していたといわれていますが、台風等の自然災害による倒木や、樹木医の診断等により、不健全と診断された樹木を、直近10年で毎年20本程度撤去したため、令和4年4月時点では265本（令和3年4月時点282本）となっています。

図 桜並木（ソメイヨシノ）の生育本数の推移



■ 現地調査図



A区間 旧環状4号線



旧海軍道路には両側歩道にソメイヨシノが植栽されている



バイパス整備に伴い、一部区間ではヨウコウが植栽されている



B区間 旧環状4号線の南側から中瀬谷消防出張所



両側歩道にソメイヨシノが植栽されている。花見の時期は散歩する人が多く訪れ、車も混雑



農地側からの景観 統一された桜並木の景観が一望できる

C区間 中瀬谷消防出張所から瀬谷中前交差点



東側歩道は住宅地に面して大きなソメイヨシノ、西側歩道はヨウコウが植栽



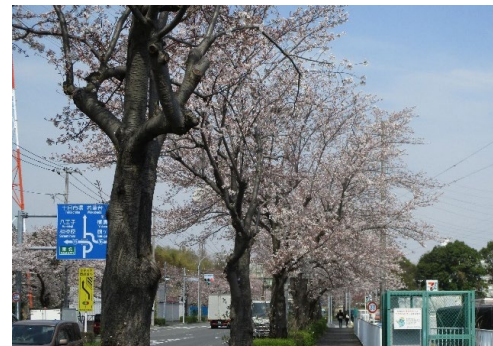
旧上瀬谷通信施設側は農地が広がっている。東側歩道はソメイヨシノ、西側歩道はヨウコウが植栽



その他区間



環状4号線の目黒交差点以北にもソメイヨシノが植栽



環状4号線の霧が丘付近は、ソメイヨシノからヨウコウに植え替え



(2) 健全度

健全度として、外観診断総合判定を見ると、ソメイヨシノではB1（注意すべき被害がみられる）が最も多く126個体、次いでB2（著しい被害が見られる）が63個体、A（健全か健全に近い）が42個体となっています。

ソメイヨシノの約3割がB2以下の判定あり、健全度の低い状態です。

表 サクラの品種別形状別外観診断総合判定別本数（令和3年度樹木医診断結果より）

	年度	区画整理区域内				区画整理区域外		合計	
		総合判定				総合判定			
		A	B1	B2	C	A~B2	C	本数	伐採
ソメイヨシノ	R2年度	57本	140本	47本	8本	38本	10本	282本	18本
		244本			伐採				
ソメイヨシノ	R3年度	42本	126本	63本	13本※1	34本	4本※2	265本	17本
		231本			伐採				

※1 C判定9本、道路管理者による維持管理上の伐採4本

※2 C判定2本、道路管理者による維持管理上の伐採2本

凡例 A：健全か健全に近い B1：注意すべき被害が見られる B2：著しい被害が見られる C：不健全

判定		基準
A	健全か健全に近い	樹勢及び樹形の活力度が1又は2であり、その他の項目に異常がないか、材質腐朽などの被害が軽微なもの。その他の異常についても、局所的あるいは軽微な処置を行えば、問題のないもの。
B1	注意すべき被害が見られる	樹勢又は樹形の活力度が3の段階であるもの。もしくは、今後活力の低下や腐朽の進行が予測され、その他の項目についても被害が各種見られ注意を要するもの。簡易な処置を必要とするもの。
B2	著しい被害が見られる	樹勢又は樹形の活力度が4の段階であるもの。もしくは、幹や根の腐朽が進行し、その他の項目においても被害が見られ、何らかの処置を必要とするもの。
C	不健全	樹勢又は樹形の活力度が5の段階であるもの。もしくは、幹や根の腐朽が著しく、極めて不健全な状態で回復の見込みがないもの。また、倒木や幹折れの危険があるもの。

街路樹診断等業務委託特記仕様書（横浜市道路局）による



幹の腐朽



根元にベッコウタケが確認された場合



木槌による打診状況

海軍道路の桜並木における健全度調査結果



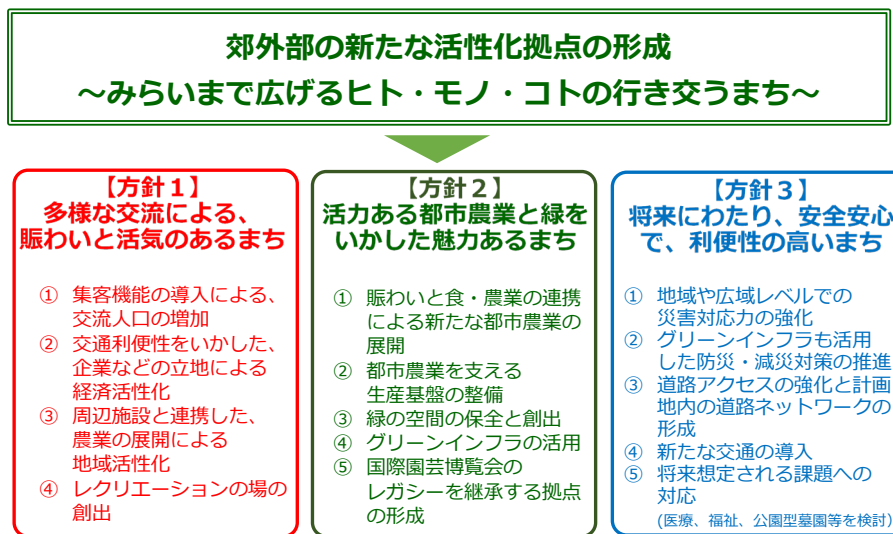
12本は令和3年度に撤去

4 関連事業の概要

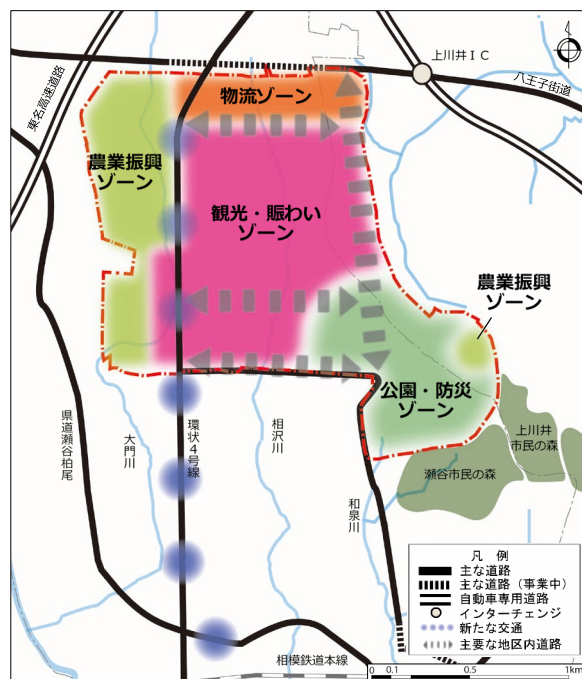
現在、本方針の対象区域内では、「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業」、「2027 横浜国際園芸博覧会」、「(仮称) 都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業」、「(仮称) 旧上瀬谷通信施設公園」が進められています。そのうち、「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業」と「2027 横浜国際園芸博覧会」の概要を整理します。

土地区画整理事業は、令和2（2020）年3月に旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画を策定しています。その中で次のまちづくりのテーマ、方針を位置づけています。

○まちづくりのテーマ、方針



○土地利用ゾーン

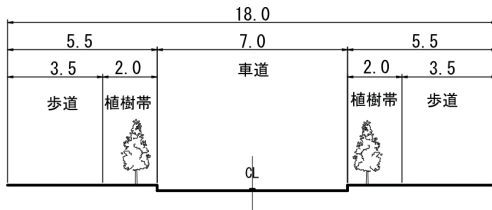


環状4号線のうち、B区間（旧上瀬谷通信施設地区）は、物流ゾーンや観光・賑わいゾーン等を配置することから、来街者へのアクセスに対応し交通の円滑性を確保するため、土地区画整理事業により拡幅整備する予定です。

A区間

A区間は、総幅員 18.0mを不変する計画です。

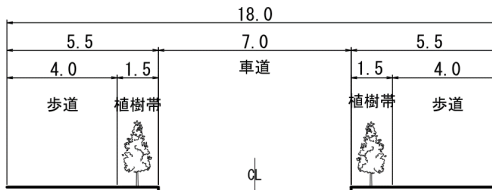
計画



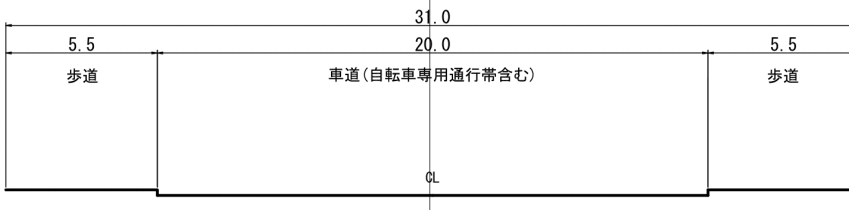
B区間

B区間は、総幅員 31.0mとし、現況の道路中心線から両側へのセンター拡幅する計画としています。そのため、現況の桜並木を残すことはできません。なお、歩道幅員は 5.5mで計画しています。

現況



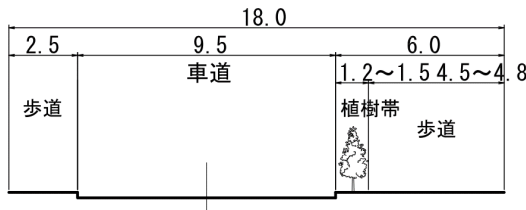
計画



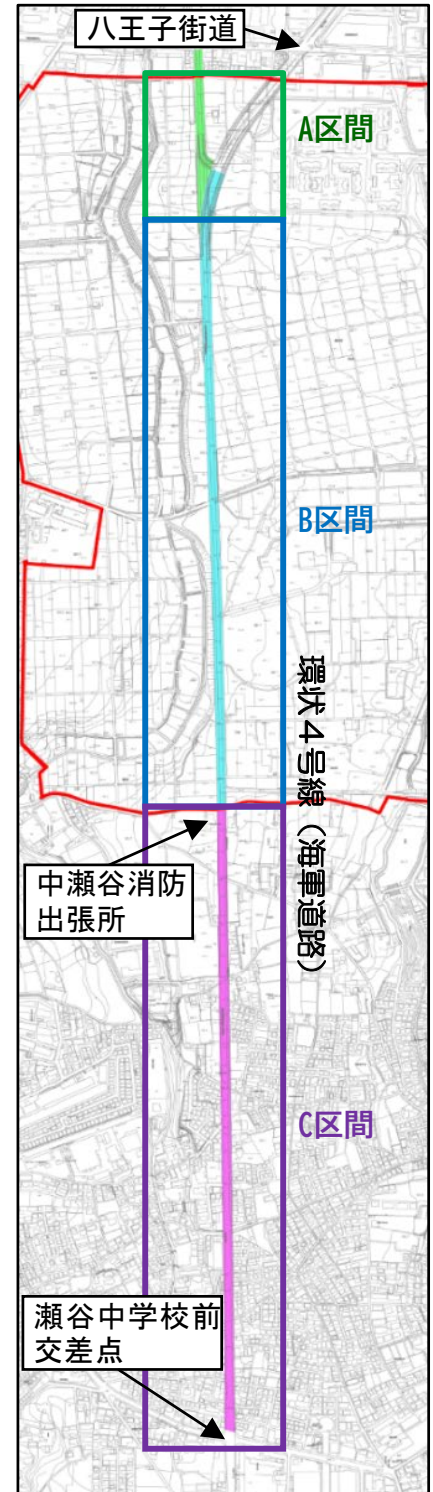
C区間

C区間は、総幅員 18.0mとなっています。植樹帯は、道路東側に 1.2mから 1.5mで設置されています。

計画



整備計画図



旧上瀬谷通信施設地区
土地区画整理事業区域

※上記の計画は、今後の協議により変更になる可能性があります。

<参考>

現在、横浜市では、2027年の国際園芸博覧会の開催に向けた取組が進められています、

国際園芸博覧会の事業コンセプトと開催場所

国際園芸博覧会は、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を目的に開催されています。

横浜には、花と緑やまちを支える市民力、企業・団体の活動があり、2017年の「全国都市緑化よこはまフェア」には600万人もの人々が訪れました。また、国際色豊かな開港都市として、世界中の方々をおもてなしするのにふさわしい舞台でもあります。

旧上瀬谷通信施設において、花と緑をシンボルに、生命感と未来の種にあふれた国際園芸博覧会(A1)が開催されることで、基地跡地のまちづくりが進み、次世代に向けた持続的な環境創出や新たな経済の活性化に貢献します。さらに、世界の子どもたちに感動を与え、横浜から明日に向けた創造的な提案や友好と平和のメッセージの発信にもつながります。

国際園芸博覧会(A1)について

A1(最高クラス)の国際園芸博覧会は、国際園芸家協会(AIPH)及び博覧会国際事務局(BIE)の認定を受けて開催される国際的な博覧会です。日本では1990年に「国際花と緑の博覧会(花の万博)」が、アジアで初めてのA1の国際園芸博覧会として大阪で開催されました。横浜市も花の万博と同じA1の国際園芸博覧会を開催します。



1990年 花の万博(大阪) 提供：(公財)国際花と緑の博覧会記念協会

テーマ・事業コンセプト

※「旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会基本構想案」(2018年3月横浜市)に基づく

テーマは、「幸せを創る明日の風景」。
花や緑、農や食、大地や交流がつなく、感動を呼び、幸せを深め、明日を予感させる多彩な風景・シーンを創り出します。
「先進性と普遍性を体感」、「多様性と寛容性を共感」、「シェア(共有・分配)とリンク(交流・参加)を実感」の3つの視点から、新たな感性や価値を創造します。



先進性 普遍性 多様性 寛容性 シェア リンク

開催場所: 旧上瀬谷通信施設

横浜市の北西部(旭区・瀬谷区)にある面積約242haの平坦な土地です。長年米軍に提供していましたが、2015年6月に返還されました。農業振興と都市的土地利用による新しいまちづくりを進めており、郊外部の活性化拠点として大きなポテンシャルを有しています。

【開催期間】 2027年3月～9月
【会場規模】 主会場 80～100ha
【来場者数】 1,500万人以上(見込み)



5 桜並木再生等の基本的な考え方（懇談会の意見とりまとめ）

（1）A、B 区間

「海軍道路の桜並木の基盤環境・歴史・社会状況」、「海軍道路の桜並木の現況」と「土地区画整理事業の概要と桜並木への影響」等を踏まえて、桜並木再生の考え方を次のとおりとします。

○基本的な考え方

A、B 区間は、桜並木を再生する。

○樹種選定の考え方

項目	考え方
樹形・樹高	現状のソメイヨシノよりも大きくならず（成長スピードが遅い）枝が広がりにくい樹種
花の色	現状のソメイヨシノの色に近い樹種
開花時期	開花時期がソメイヨシノとおおよそ同時期の3月下旬から4月上旬の樹種

○整備方針

項目	考え方
植栽間隔	横浜市街路樹設置基準に基づき、10mを基本に植栽
植栽基盤	再生にあたっては、樹勢を考慮して植栽基盤を整備する
植栽位置	環状4号線西側の農地への影響を考慮して、車道側に桜を植栽する

前述の考え方を踏まえて、A、B区間の樹種について、比較検討を行いました。

種名(品種名)	ヨウコウ	コシノヒガン	ジンダイアケボノ	※参考 ソメイヨシノ
事例写真	植え替え前  植え替え後  横浜市 港南区 港南桜道	植え替え前  植え替え後  横浜市 泉区 いずみ野駅前通り	植え替え前  植え替え後  横浜市 金沢区 西柴の桜並木	※今回提示させていただいた3種と比較検討するための参考であり、ソメイヨシノは今後、検討する樹種ではありません。 
タイプ	カンヒザクラ群栽培品種 アマギヨシノ×カンヒザクラ	エドヒガンとキンキマメザクラの交雑種 自生種 エドヒガン × キンキマメザクラ	エドヒガン群栽培品種	エドヒガン群栽培品種 エドヒガン×オオシマザクラ
開花時期、花の色	4月上旬 淡紅紫色／一重咲 ソメイヨシノより、濃いピンク	3月下旬 淡紅色／一重咲 ソメイヨシノに近い淡いピンク	4月上旬 淡紅紫色／一重咲 ソメイヨシノより、少し濃いピンク	3月下旬 微淡紅色～白色／一重咲 淡いピンク
樹高、樹形	落葉高木 広卵型  ソメイヨシノほど大きくならず、枝が広がりにくい	落葉高木 傘型  ソメイヨシノほど大きくならず、枝が広がりにくい	落葉高木 傘型  ソメイヨシノよりやや小ぶりで、枝が広がりやすい	落葉高木 傘型  枝が広がりやすい
病害虫	ソメイヨシノに比べて、病害虫に強い (抵抗力がある)	ソメイヨシノに比べて、病害虫に強い (抵抗力がある)	ソメイヨシノに比べて、病害虫に強い (抵抗力がある)	てんぐ巢病にかかりやすい
成長スピード	ソメイヨシノより成長が遅い 約10年で6～7m※	ソメイヨシノより成長が遅い 約10年で6～7m※	ソメイヨシノと同程度 約10年で7～8m※	成長が早い 約10年で7～8m※
結論	△ 花の色が適していない (今までの懇談会での意見)	○ 病害虫に強い 現在の桜並木の趣(開花時期、色) ソメイヨシノより成長スピードが遅い	△ 成長スピードがソメイヨシノに近い	—

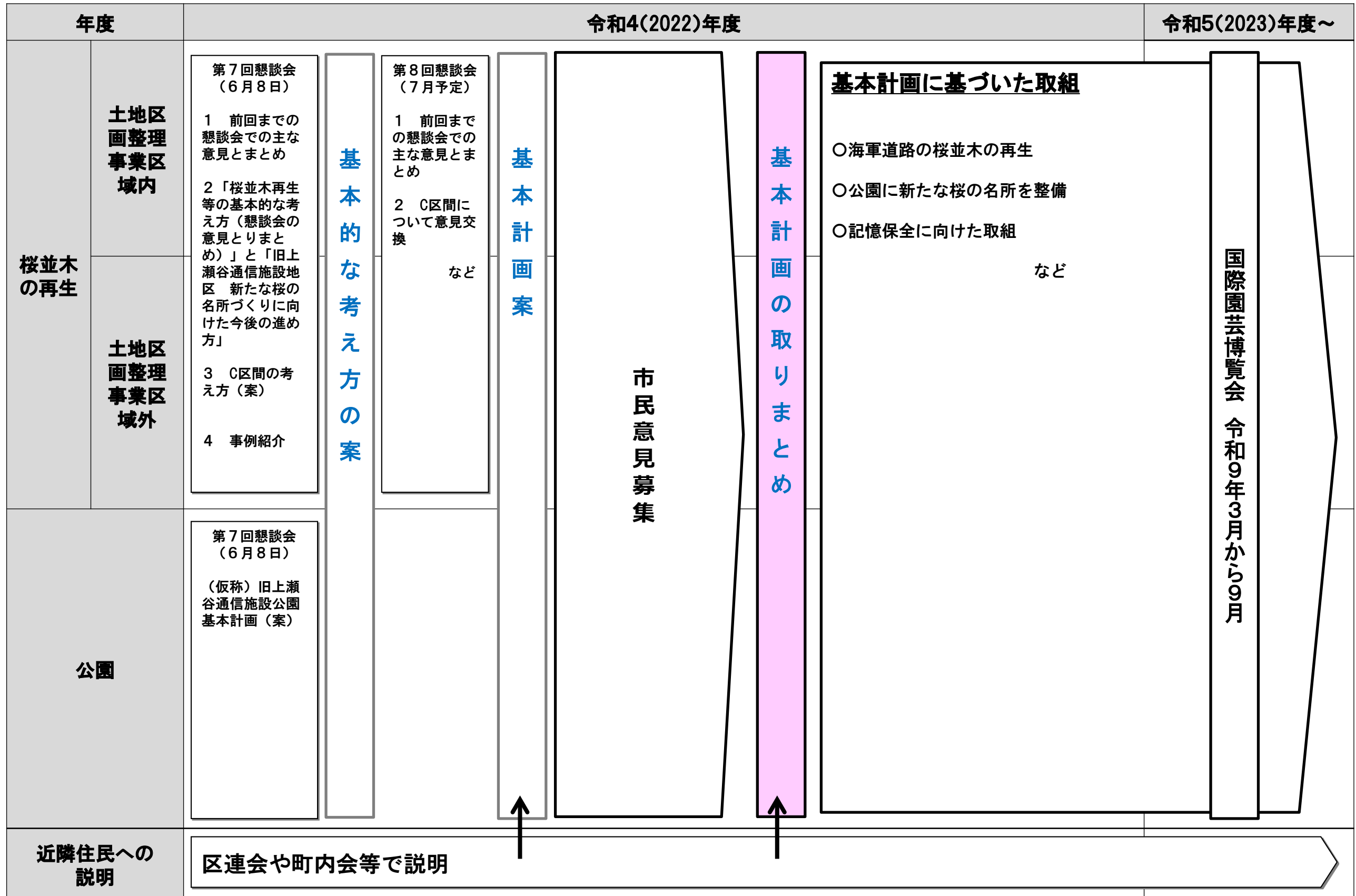
OA、B区間のまとめ

今までの海軍道路の桜並木における
景観(淡いピンク色)の継承

- ・ A、B区間は、桜並木を再生する。
- ・ 再生にあたっては、既存のソメイヨシノをコシノヒガンに植え替えることを基本として、引き続き、検討を進めていきます。

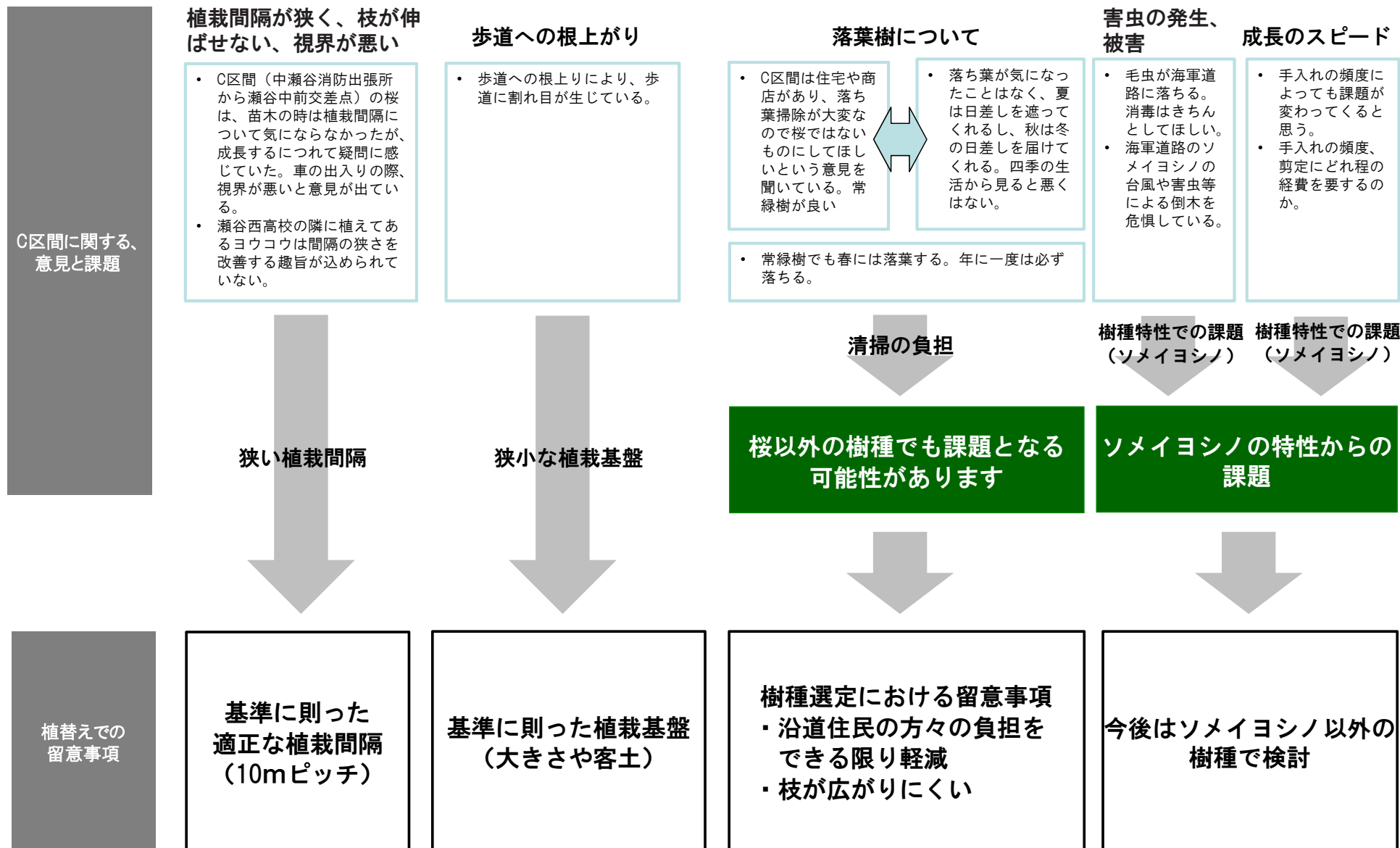
(2) C 区間

C 区間は、引き続き、懇談会で意見交換を行いながら検討を進めます。



第4回懇談会（令和3年12月20日）資料の再掲

1 C区間の課題の整理と植替えでの留意事項

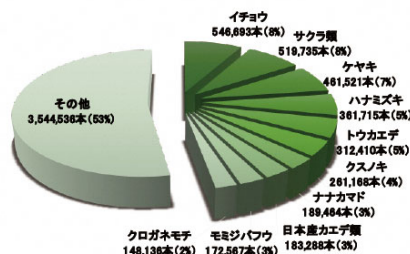


第4回懇談会(令和3年12月20日)資料の再掲

2 C区間の考え方(案)

(1)落葉樹と、常緑樹

- 「わが国の街路樹Ⅷ 平成29年3月31日現在」での、全国の道路緑化の状況を見ると、街路樹として多いのは「落葉樹」となっています。
- 理由としては、夏は枝葉の木陰によって日差しを遮り、冬は落葉によって日差しを取り入れることが挙げられます。(緑陰樹)



出典: わが国の街路樹Ⅷ 国総研資料 第1050号

(2)桜並木の概要・沿革

- 海軍道路の桜並木は、**平和を祈念して昭和50年から57年頃に植樹**されました。
- 平成29年度瀬谷区区民意識調査の瀬谷区を象徴するものに関する設問で「桜並木」が2位となっています。
- 瀬谷土木事務所ではC区間の西側歩道にヨウコウを随時植樹していくことや、東側歩道にもヨウコウの植樹を検討していく方針を地域に広報、現地説明会を開催しました。このことを踏まえて、**現在まで、ソメイヨシノからヨウコウへの樹種転換を随時、進めています。**

(3)街路樹の機能(景観向上)

- 道路緑化技術基準では、下記のような機能が街路樹に求められています。環状4号線の桜並木は、**十日市場から続いておりその景観を維持・向上していくという視点も重要**と考えます。

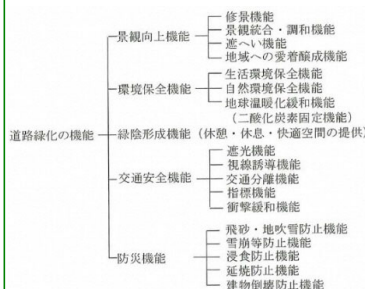
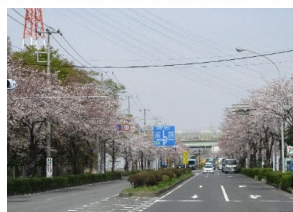


図 1-1-1 道路緑化の機能



目黒交差点以北にもソメイヨシノが植栽。(ヨウコウに植替え中)



(4)これまでの懇談会での意見

既存の桜への思い

- 桜を切ってしまうと風流が無くなってしまう。スペースがあるなら桜を植えてほしい。C区間も同じ路線なので、できれば桜が良い。
- 環状4号線の桜は霧が丘から続いている。多少桜を残した方が良いと思う。
- 自分はビジターなので、桜が良い
- ビジターの人的には桜が良い

花博に向けての名所化

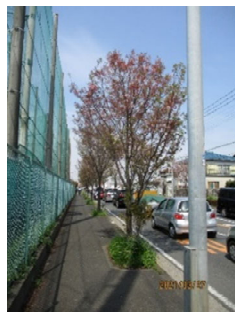
- テーマパークや公園など多くの人を迎え入れるという観点からいくと、駅から環状4号線が名所になることがとても重要。

C区間の考え方(案)

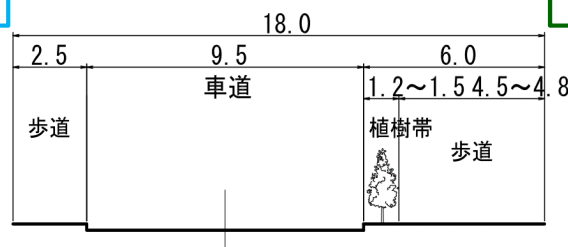
海軍道路の桜を植え替えることで、新たな桜並木を創出する

C区間の考え方（案）について

(1) 現状



西側



東側



(2) C区間の考え方（案）

○西側歩道

(1) 現況幅員

- 現況の歩道幅員は約2.5mです。

(2) 横浜市街路樹設置基準（平成18年9月1日改正）

- 「高木の植栽が可能な歩道幅員は3.5m以上とする」とされています。

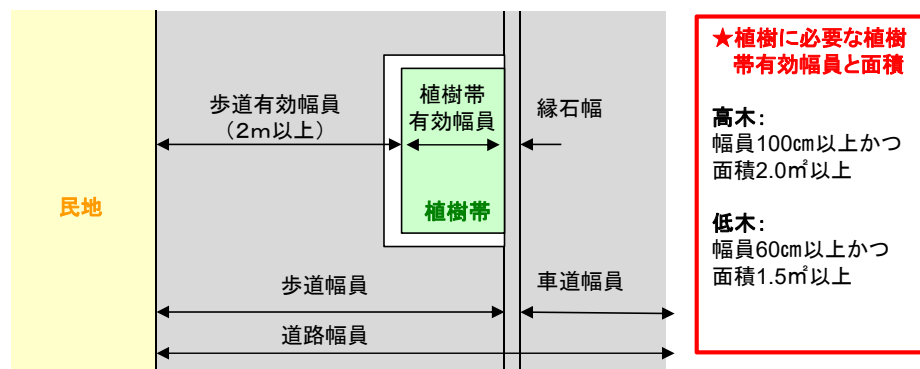
(3) 高木、低木が植栽可能な歩道幅員

○高木

- 歩道有効幅員（2m）+ 植栽帯有効幅員（1m）+ 縁石（0.15m）= 3.15m以上

○低木

- 歩道有効幅員（2m）+ 植栽帯有効幅員（0.6m）+ 縁石（0.15m）= 2.75m以上



(3) 今後の対応案

街路樹設置基準に基づき、新植はしない

既存のヨウコウ等は存置とし、これまでと同様に管理していく

○東側歩道

(1) 現況幅員

- 現況の歩道幅員は約6.0mです。

(2) 横浜市街路樹設置基準（平成18年9月1日改正）

- 街路樹設置基準では次のように定められています。

- **植栽間隔**
街路樹（並木）は、標準10m以上とする。
- **交差点部**
隅切りの起終点から10m以上離す。など。

(3) 今後の対応案

C区間は、引き続き、懇談会で意見交換を行いながら、検討を進めます。

【参考】周辺連合町内会等の会合でいただいた主なご意見

	瀬谷第一地区連合町内会	本郷地区連合自治会	瀬谷北部町内連合会
日時	令和4年5月22日(日)18:00～	令和4年5月25日(水)19:00～	令和4年5月28日(土)19:00～
場所	瀬谷四丁目町内会館	本郷第一自治会館	上瀬谷町内会館

【A・B区間について】

- 海軍道路を拡幅するにあたって、ソメイヨシノからコシノヒガンに植え替えると説明があったが、工事着手時期が決まったら教えてほしい。
- 桜の木の植え替えにあたって、植替え後の開花時期に花が咲くよう配慮いただきたい。あまり成長していない木を植えて花が咲かないと、お花見は楽しめないだろうし、地域外の方も海軍道路の桜並木を楽しみにされている方々が多いので気になる。
- コシノヒガンに植え替えるというが、正直小ぶりだと悲しい。瀬谷には名所と言われる場所がなく、唯一海軍道路の桜並木は名所だと思っている。先ほども言ったが、植え替えなければならない状況にあることは把握しているので、小ぶりだけでも本数を多く植える等で寂しくないよう工夫を施してほしい。

【C区間について】

- C区間のソメイヨシノは、お花見をすと言っても樹高が高いので、歩いての鑑賞には適さない。目線レベルで鑑賞ができるようになると良い。
- C区間は枝が住宅側に伸びないよう配慮が必要。
- 落葉の時期は、地域の方々が班長を中心に有志で掃除していたけれど大変だと思う。
- 桜並木は心のよりどころであるため、ソメイヨシノの樹種にはこだわっていないので、桜に植え替えて欲しい。
- 植え替えは大きくなりすぎない桜なら賛成。

【倒木について】

- 海軍道路の桜にとっても思い入れがある一方、台風の後早朝に、車で通った時に倒木があったので伐採しなければならない状況でもあることは承知している。
- 地元の人たちは、桜は倒木の危険があるので、植え替えなければならないということは分かっている。

【伐採反対の意見について】

- 地元の方は、植え替えなければならないということは分かっている。どちらかといえば伐採反対等の声は、地域外からの声であるので、このように再生していくという説明・説明方法含めて、地域外からの声に負けないよう頑張してほしい。

【維持管理について】

- カラスが桜に巣を作ることについて、地域から苦情が出ている。
- 町内会では日常管理をするとともに、手に負えない部分は、土木事務所に対応をお願いをしている。今後の維持管理についても議論が必要。

	桜並木の再生・育生子孫の育成	桜の伐採木の活用			イベントの開催
		日常利用できる製品に加工	教育の材料として活用	舗装やベンチ等への活用	
実施内容の事例	<ul style="list-style-type: none"> 木の枝を切り取り、台木を準備して接ぎ木する。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材を加工して、地域住民に配布したり地域イベントの記念品として配布する。 <p>例 札幌市創成川通の整備</p>  <p>出典：国土交通省</p>  <p>札幌市創成川通の整備では伐採したシダレヤナギをコースターに加工して配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種、地元での教室、小学校や保育園などと連携して、伐採した材木を利用した木工教室等を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 丸太材をベンチとして活用 切り株や丸太材を加工してベンチとして活用   <p>千葉県柏の葉 NPOこんぶくろ池自然の森を中心に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> サクラをチップにして燻製材等として活用。 	<ul style="list-style-type: none"> フォトコンテストや、歴史を語る場をつくるなど <p>フォトコンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市営地下鉄・市営バス沿線の桜スポットを楽しんでいただけるよう「横浜市営交通 わたしの桜見つけよう」をテーマに開催  <p>出典：横浜市交通局ホームページ</p>

瀬谷西高校 × SDGs

瀬谷に花を咲かせよう！ 園芸博につなげよう！

瀬谷西高校3学年(43期)の生徒が、瀬谷を花で盛り上げるため、海軍道路をはじめとした瀬谷の各所に花を植栽します。地域の皆さまにお花を楽しんでいただくとともに、「2027年 国際園芸博覧会」の気運醸成の一助になれば幸いです。



2022

5/26(木)

フラワーロードプロジェクト

瀬谷西高校3学年(43期)の生徒約300名が、ハマロードサポーター活動の一環として、三ツ境養護分教室やPTA、地域の企業と一緒に、海軍道路や瀬谷駅北口プランター、瀬谷西高校、商店街、中屋敷地区センターなどに花を植栽します。なかでも海軍道路は、平和の象徴として花が咲き誇るフラワーロードとして、地域の皆さまに愛される道路になることを目指します。



横浜市政策局共創推進課の支援をうけ、抜いた花は廃棄するのではなく「有機堆肥」にリサイクルしたり、新たに植えた花は瀬谷の「ハチミツ」で街づくりをしていくプロジェクトにおいてミツバチの蜜源としていくなど、花を通じた瀬谷の地域循環共生圏づくりにも取り組みます。



MAP

神奈川県立瀬谷西高等学校は、再編統合のため、2023年3月31日に完校します。最終学年である43期生は、総合的な探究の時間(SEYANISHI SDGs Project)に取り組み、学びの成果を瀬谷西のレガシーとして地域に継承します。

瀬谷西高校は「ガーデンネックレス横浜」「2027年国際園芸博覧会」を応援しています。



公園整備の8つの方針

「つくる」「つかう たのしみ」「たかめる」の3つの視点から取組を進めていきます。

つくる

花と緑、農、水の風景が広がる
上瀬谷の環境基盤の創出

1 上瀬谷の「緑」と「水」を基調とした公園

上瀬谷の原風景である農景観や、米軍施設の跡地という独自の歴史性により残された自然をいかした緑豊かな公園とします。

- ・既存の樹木や地形、表土の活用などを考慮した施設整備
- ・相沢川の谷戸地形や和泉川の源頭部の環境をいかした生物の生息生育環境の保全・創出 など

2 グリーンインフラの展開と緑の多面的機能の発信

グリーンインフラの導入によって自然が持つ多様な機能を発信し、気候変動に適応した新たなモデルとなる公園とします。

- ・雨水浸透貯留・水源涵養など流域を踏まえた水循環の推進
- ・緑陰や水系、風をいかした快適空間の創出
- ・デジタル技術を活用した自然環境機能のモニタリング など

3 防災・減災に資する公園

できる限りまとまったオープンスペースを確保することで、災害時には「広域応援活動拠点」や、地域の避難場所として防災機能を発揮するとともに、グリーンインフラの効果による防災・減災機能も発揮できる公園とします。

- ・災害時の広域応援活動拠点や広域避難場所として活用できる大きな広場の配置
- ・緑の持つ雨水貯留機能、避難路や延焼防止機能等に着目したグリーンインフラによる防災・減災機能の強化 など

たかめる 多様な主体と連携し緑の機能を高める取組・パークマネジメントを展開

7 国際園芸博覧会のレガシーの継承・発信拠点

園芸博の跡地にできる記念公園として、花き園芸・農に関する取組、SDGsの実現やSociety5.0、カーボンニュートラルの推進等の園芸博の理念や取組などを継承していく公園とします。

- ・自然共生型の都市基盤としてのグリーンインフラの実装と発信
- ・園芸博を通じてできた人々のつながりや取組の継承発展
- ・デジタル技術による効率化や利便性の向上とカーボンニュートラルの考えを踏まえた持続可能な管理運営 など

つかう たのしみ

「みどり」とともにある持続可能で
多様なライフスタイルの展開

4 「農」と持続可能なライフスタイルの融合

農体験ができる場の創出など、上瀬谷の農と持続可能なライフスタイルが融合し実践する公園とします。

- ・畑や水田などの農体験ができる場の整備
- ・地産地消や収穫体験、食育などの健康に配慮した農に関するプログラムの提供
- ・農体験や農福連携などの農的活動を通じた交流の推進 など

5 多様な主体が参画し、様々な楽しみ方を引き出せる公園

市民や企業、周辺まちづくりなどと連携し、地域の祭りや広域的なイベント、スポーツやレクリエーション、公園の維持管理など、様々な場面で多様な主体が参加・運営することができる公園とします。

- ・地域の祭りや広域的なイベントを開催できる草地広場の整備
- ・スポーツ施設、アウトドア体験施設、環境活動拠点、インクルーシブ遊具、健康器具などの導入
- ・花や緑の維持管理を通じたコミュニティの形成 など

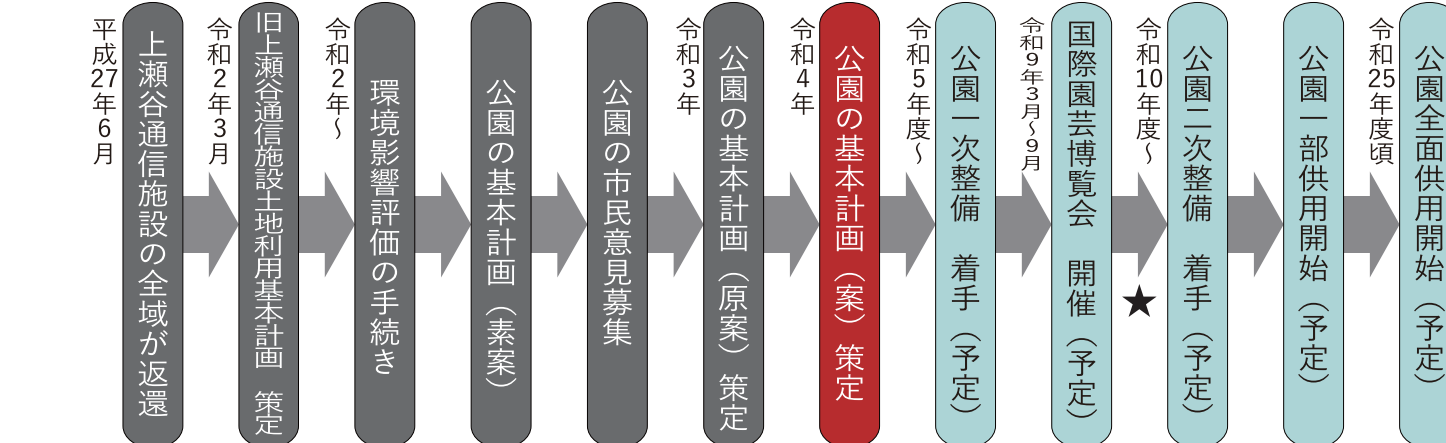
6 四季を通じて楽しみながら自然と触れ合う心地よさや喜びを感じられる公園

豊かな自然環境の中で、自然とともにある心地よさや喜びを感じながら、自然体験や環境学習などが行える公園とします。

- ・桜並木や多様な品種による桜の名所づくり、瀬谷区の花あじさいなど、四季を通して花を楽しめる植栽計画
- ・上瀬谷の水や緑の空間をいかした「ガーデン」や国内外の文化に触れ合う庭園の整備 など

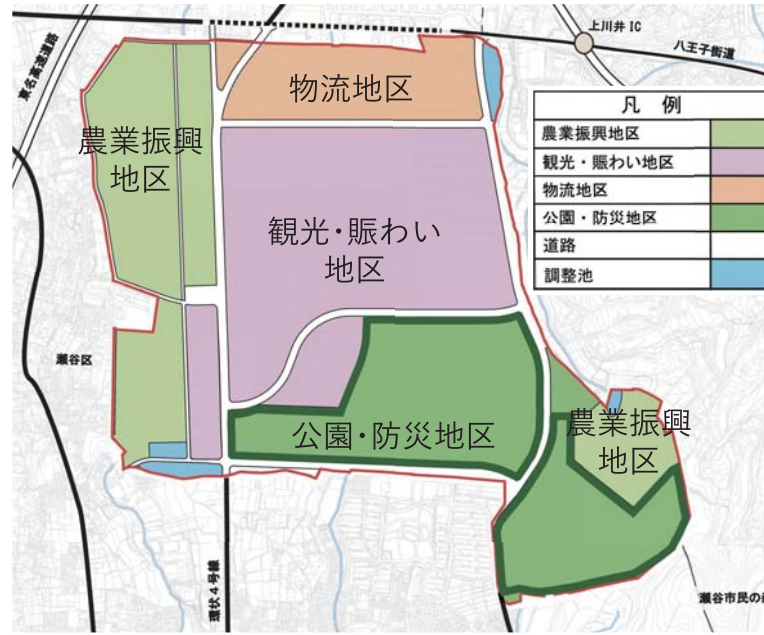
これまでの経緯と今後の進め方

※スケジュールは、現時点での想定であり、今後変更になる場合があります。



※公園一次整備は、国際園芸博覧会で活用可能な園路・広場、インフラ設備、グリーンインフラ、★国際園芸博覧会のレガシーの継承を具体的に盛り込んだ計画に更新予定
庭園、植栽、各種施設等を整備。

【参考】旧上瀬谷通信施設における土地利用計画



公園事業区域

農業振興地区

賑わい施設などと連携した農産物の収穫体験や、滞在しながら農の魅力を感じる農体験、ICTなどを活用した質の高い農産物の安定生産と直売等による「収益性の高い農業」の展開、大学と連携した農業技術の研究など、他の地域へも波及する新たな都市農業モデルとなる拠点を形成します。

観光・賑わい地区

テーマパークを核とした複合的な集客施設が立地し、国内外から人を呼び込む観光と賑わいの拠点を形成します。

物流地区

東名高速道路や保土ヶ谷バイパスなどの広域的な幹線道路との近接性をいかし、新技術を活用した効率的な国内物流を展開する新たな拠点を形成します。

公園・防災地区

国際園芸博覧会のレガシーを継承する公園や災害時における広域的な防災拠点(消防・警察・自衛隊などの受入に必要な広域応援活動拠点としての施設・機能や広域避難場所としての機能)などを形成します。

【参考】2027年国際園芸博覧会 概要

開催期間	2027年3月～9月
開催場所	旧上瀬谷通信施設
クラス	A1(最高クラス)
参加者数	1,500万人 (ICT活用や地域連携などの多様な参加形態を含む) (有料入場者数1,000万人以上)
博覧会区域	約100ha (会場に隣接する駐車場やバスターミナルを含む)
開催組織	一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会

<国際園芸博覧会に関する情報については、下記のHPでご確認できます>
一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会HP <https://expo2027yokohama.or.jp/>

横浜市環境創造局公園緑地整備課上瀬谷担当
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10(市庁舎28階) 電話:045-671-4615

(仮称) 旧上瀬谷通信施設公園 基本計画 (案)

公園概要 所在地:瀬谷区瀬谷町・旭区上川井町 / 公園種別:広域公園 / 面積:約65ha



旧上瀬谷通信施設は、平成27年6月に返還された米軍施設の跡地で、面積は約242haと首都圏でも貴重な広大な土地です。横浜市では、土地利用について検討を進めており、まちづくりの一環として新たな公園の整備を計画しています。

公園計画の基本テーマ

「みどり」で広がる暮らしの風景

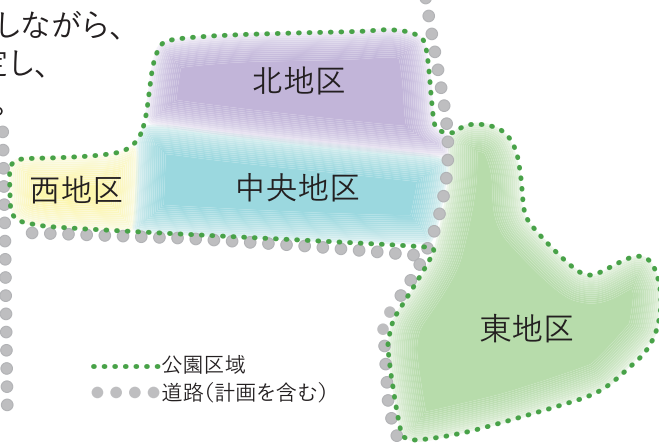
花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイル※を
実践・発信する。



※自然環境とのつながりを体感し、花や農を身近に感じながら心身ともに健やかな生活を楽しむ。

4つの地区の特徴

現在の地形などをいかしながら、大きく4つの地区を設定し、施設の整備を行います。



北地区

公民連携を積極的に推進し、自然と共生しながら、賑わいを創出する地区

東地区

自然体験や農体験などを通して、自然と暮らしが調和する持続可能なライフスタイルの発信や自然とともにある心地よさや喜びを感じながら、森林浴や地域の自然をいかした自然観察や環境学習などを行う地区

中央地区

広大な草地広場をいかしたイベントやレクリエーション活動、憩いの場となるとともに、植物や環境などに関する学びを発信する地区

西地区

スポーツを中心としたレクリエーション活動の場となる地区

主な施設の特徴

地区	施設	内容
西	運動広場	サッカー、少年サッカーなどの有料利用を想定した広場。ナイター利用も想定。
	野球場	硬式野球、少年硬式野球、軟式野球、少年軟式野球、ソフトボールなどの有料利用を想定。ナイター利用も想定。
	多目的広場	地域のスポーツレクリエーションの場として、少年軟式野球、ソフトボールなどの利用を想定。
	スポーツ施設管理棟	更衣室、シャワー、ロッカー、休憩施設などを備えた管理棟。
中央	桜並木	公園のシンボルとなる主園路沿いに配置するソメイヨシノの並木。
	サクラ広場(草地広場)	周囲に桜のある広大な草地広場。地域の祭りやイベントにも活用。災害時には自衛隊などの活動拠点やヘリコプターの発着も可能。
	大花壇	谷戸の地形をいかし、市内産の花苗などを活用した大花壇。
	遊具広場	大型複合遊具や健康器具、身体能力に関係なく、様々な利用者が安心して楽しめる遊具などを設置。
	ドッグラン	犬の大きさに応じた複数の区画や、休憩施設、水飲みなどを設置。
北	パークセンター1(植物・環境体験学習等)	「みどり」とともにある持続可能なライフスタイルをテーマとした様々な展示や情報発信、体験学習等が可能な施設。休憩や飲食の場としても活用。国際園芸博覧会のレガシー継承施設としても検討。
	アウトドア体験施設 飲食・物販施設	自然と共生しながら賑わいを創出する区域として樹林などの新たな緑の創出をしながらアウトドア体験施設や飲食・物販施設などを想定し、公民連携による整備を積極的に実施。
東	体験農園	農体験や収穫体験ができる農園。農体験などを通じた交流や農のコミュニティ形成の場としても活用。
	森の散策路	和泉川の源流や周辺の自然を保全・活用し、隣接する市民の森などと連続した自然の魅力を体感できる散策路。環境教育などのフィールドとしての活用や森の維持管理への参加などを通じた森と緑のコミュニティ形成の場としても活用。
	日本庭園	和泉川の源頭部を保全するとともに、日本の伝統を踏まえた自然との共生を体現する庭園。日本の伝統文化・技術の発信の場。
	パークセンター2(環境活動拠点等)	花や農、福祉、健康、教育などをキーワードに多様な環境活動の支援・展開を行う施設。休憩や飲食の場としても活用。既存部材を活用して再現した日本建築も整備し、伝統文化を継承する場として活用。国際園芸博覧会のレガシー継承施設としても検討。
	園内で展開	国際園芸博覧会に向けてテーマが異なる複数のガーデンや庭園を整備。市民と共に作る球根ミックス花壇など、花と緑を通じた交流やコミュニティ形成の場としても活用。
	ジョギングコース	幅の広い園路を活用し、ジョギングコースを設定。

公園基本計画図

■アウトドア体験施設



■サクラ広場(草地広場)



■ガーデン1



■運動広場



■野球場



■多目的広場



■遊具広場



■桜並木



■ドッグラン



■大花壇



※写真はイメージです。
 ※土地区画整理事業や国際園芸博覧会事業の検討、環境影響評価の手続き、公民連携による事業者の提案などにより、施設内容などが変更になる可能性があります。
 ※本図面に記載のないベンチ、水飲み、トイレ、休憩所などの具体的な施設は、今後、配置を検討していきます。
 ※建築や庭園、ガーデン、広場などは概ねの位置を示すもので、詳細については、引き続き検討していきます。
 ※施設の詳細は、設計を進める中で継続して検討していきます。



■ガーデン4



■市民庭園



■体験農園



■森の散策路



新たな桜の名所づくりについて

1 現状

(1) 沿革

海軍道路（瀬谷中学校前交差点から八王子街道までの区間、約3km）の桜（ソメイヨシノ）は、昭和51年頃から植樹が始まりました。

(2) 桜の健全度について

平成7年度時点で約600本のソメイヨシノが生育していたといわれていますが、台風等の自然災害による倒木や、樹木医の診断等により、不健全と診断された樹木を、直近10年で毎年20本程度撤去したため、令和4年4月時点では265本（令和3年4月時点282本）となっています。

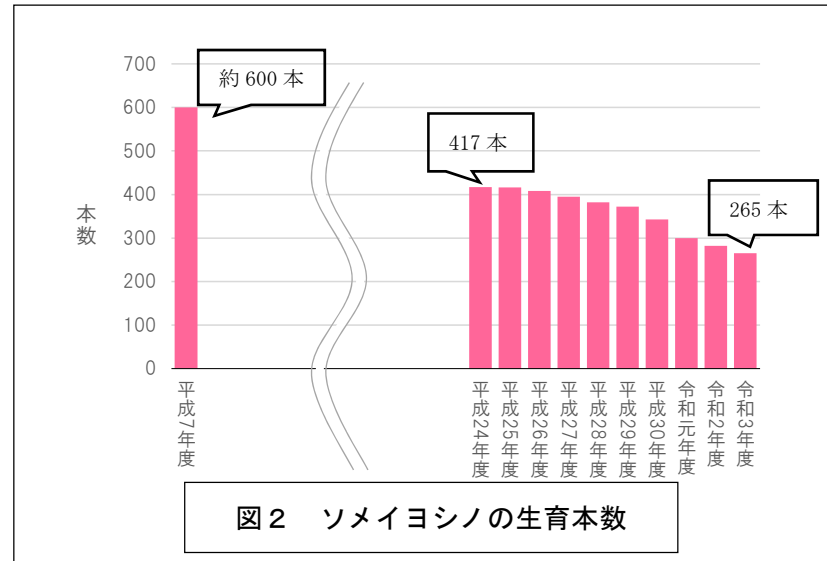
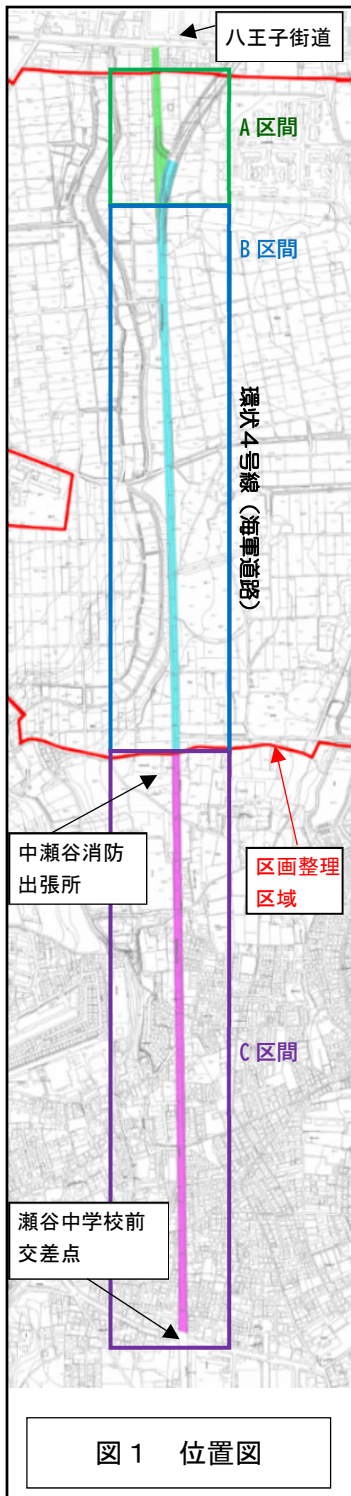


図2 ソメイヨシノの生育本数

年度	区画整理区域内				区画整理区域外		合計	
	総合判定				総合判定		本数	伐採
	A	B1	B2	C	A~B2	C		
ソメイヨシノ R2年度	57本	140本	47本	8本	38本	10本	282本	18本
R3年度	42本	126本	63本	13本※1	34本	4本※2	265本	17本

※1 C判定9本、土木による維持管理上の伐採4本
 ※2 C判定2本、土木による維持管理上の伐採2本

凡例 A: 健全か健全に近い B1: 注意すべき被害が見られる B2: 著しい被害が見られる C: 不健全

図3 ソメイヨシノの樹木医診断結果



撤去された桜跡



平成23年9月の台風で倒木した様子

2 海軍道路の桜並木に関する懇談会について

国際園芸博覧会や旧上瀬谷通信施設のまちづくりをきっかけに、海軍道路の桜並木のこれらについて検討を進めるため、地域の方々や公募区民による「海軍道路の桜並木に関する懇談会」（以下「懇談会」）を令和3年度に設置しました。

意見交換を行った結果、土地区画整理事業区域内（中瀬谷消防出張所～八王子街道）は桜並木を再生していく方向で意見がまとまりました。

土地区画整理事業区域外（瀬谷中学校前交差点～中瀬谷消防出張所）は、懇談会において引き続き、意見交換を行いながら検討を行う予定です。



意見交換の様子



樹木医による現地説明会



桜並木の再生事例（いずみ野駅付近）

3 桜再生に向けた今後の進め方

海軍道路の桜については、老木化が進んでいるため、国際園芸博覧会や旧上瀬谷通信施設のまちづくりをきっかけに、新たな桜の名所づくりに取り組んでいきます。これまで検討を進めてきた、懇談会での検討結果等を踏まえて、桜の再生に向け、近隣の方々に説明するとともに、市民意見募集を行った上で計画として取りまとめていきます。

